

OPINION

中経論壇

日本公認会計士協会 東海会
日本公認会計士協会 委員長
林 伸一



多くの地方自治体では、少子高齢化やインフラ・公共施設等の固定資産の老朽化による更新費用の負担で、引き続き厳しい財政運営が続いている。また、職員による故意や重大な過失による事件・事故の報道もあり、地方自治体に対する信頼性を損なう事件も多く発生している。そこで、会計・監査の視点で地方自治体の現状及び今後の対応についてみてゆく。

内部統制監査の導入が重要

地方自治体の会計・監査

成・公表された。しかし、地方自治法などで法制化はされていらないため、全ての地方自治体で作成されておらず、予算・決算・監査の対象とされていない。従って、企業会計的な情報の活用や信頼性の確保の点では制度上十分なものとなっている。地方自治体は監査委員による監査はあるが、民間企業が受けるような公認会計士・監査法人による会計監査は実施されていない。海外では、公的セクターにおける公認会計士などの監査が実施されている国はあるが、日本では一部の公的セクターを除き、その対象にはなっていない。また、監査委員はその補助を行う事務局職員を含めても、予算規模や事業数の多さに比べ、十分な体制でない場合が多い。さらに監査対象である公営企業会計や財政援助団体などの会計は企業会計であり企業会計や簿記の知識も必要となるが、企業会計の知識や会計監査の経験に乏しい場合も多い。昨今の地方自治体を取りまく環境から、監査委員監査の重要性は増しており、監査体制や方法についても、さらなる見直しが必要である。会計・監査がより適切に実施される前提として内部統制が重要になる。地方自治体における内部統制制度は令和2年度に都道府県、政令市を対象として導入されたが、それ以外の地方自治体は任意であり、導入していない団体が大半である。導入していない地方自治体でも予算規模は数百億円から数千億円と大規模であり、公正性・正確性が求められる状況から、内部統制制度の必要性は言うまでもない。

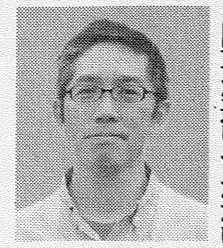


PHOTO NEWS

富士山山頂に長年登り続け「ミスター富士山」として知られる美川欣伸さん(80)＝静岡県沼津市＝が10日、「ふじさん」にちなみ目標としていた2230回目の登頂を達成した。美川さんは取材に対し「感無量。夢をかなえられてこの上ない喜びだ」と語った。同日午前4時ごろ、同県裾野市の須山登山口をスタート。富士宮ルートから登り、午後2時ごろ山頂に到着し、午後6時半ごろに5合目へ下山した。道中は天気がよく、星空も見えた。登頂後には駆け付けた登山仲間から胴上げされたという。美川さんは横浜市生まれ。富士山には42歳で初登頂し、47歳から頻りに登るように。60代後半は年間200回以上と精力的に登り、75歳で2千回を達成した。来年5月にはエベレストに登頂することが次の目標という。

オピニオン

Opinion



岐阜大学 応用生物科学部教授 八代田 真人

ヤギと 協働す

なってきた。河川の堤防や道路法面、公園緑地の管理は建設業の領分だが、ここでも除草が追いつかない。人手不足という名の怪物が多くの産業に襲いかかっている。運輸業、製造業、建設業、私の関わる農畜産業では人手不足に加えて、高齢化も止まらない。人手不足は、農業ならば作物の生産量を減らし、建設業ならば工期の遅れなく、目に見える形で影響が表れる。しかしながら、本業とは一見関係のないところにも影響がある。その一つが、「緑の管理」だ。郊外を車で走れば、かつては水田や畑だったと思いき雑草の生茂る土地が目につくように

緑の管理は誰がするのか



ヤギの手も借りたい。より正確にはヤギの口あるいは腹と言っべきかもしれない。

ナビゲーター

私はこのコラムを書くにあたって、私を取り巻く5人のシニアたちの生々しい現場を調査した。インタビュは一人当たり平均2時間にも及び、シニアの生きがい論に花を咲かせることができた。すると5人に共通する点が浮かび上がったのである。

21世紀 シニア社会を デザインする

名古屋市立大学 新希望学研究会

時、青春時代の音楽経験があつて「名古屋一期会」というサークルに復会し、その中ですばらしい人生経験をさせていたに違いない。このことはシニア生活を送る人のために、ヒントを与えているような気がする。すばらしい青春時代を過ごした人はシニアになった時、スムーズな乗り換えが約束されていると言える。しかし青春時代は過去の出来事で今さらどうしようもない。これからどうするか。

サークルで「しごと」をする

その答は、どういう人脈(友人)を作っていくかにかかっていると思う。出会いから生まれた人脈はくもの巣のように広がって行く。やがてそれはサークルでの活動となつて、すばらしい趣味の世界、ボランティアの世界、魅力的な「生きがい」「しごと」がそこに待っている。あとは、そのための行動あるのみだ。最近気になっていて、私自身も書いてみたいと思う。私の会社のOBたちが立ち上げたサ

鍵はよき友人をつくる